



創立 2011年6月17日
SAITAMA UKISHIRO
JAPAN

埼玉浮き城プロバスクラブ

2021,8,20 発行
No. 122

例会日 毎月第3金曜日 ホテル ガーデンパレス 熊谷市佐谷田 3248 TEL048-525-7777
事務局 〒360-0823 埼玉県熊谷市榎町 106 (幹事 岡安眞也方) TEL・FAX 048-521-3359
会長 根岸 友憲 副会長 木島 隆夫 幹事 岡安 眞也 情報委員長 椎橋 俊夫

第 123 回例会 (8 月 20 日) 新型コロナウイルス感染予防対策のため休会となりました。

第 122 回 (7 月 16 日) 通常例会

□幹事報告

幹事 岡安 眞也

1. コロナ禍にあり誠に残念にも 8 月 6 日実施としていました「暑気払い」について本日の理事会にて中止を決定致しました。
ここにご報告しご理解をお願い致します。
2. 8 月 20 日・第 123 回例会は、コロナ禍状況を追跡しつつ実施可否を見極めると致します。
現状 実施変わらずですが、今後の連絡に注視お願いいたします。
3. 益々の盛夏、コロナ禍に十分なご配慮をもって乗り切りますよう祈念申し上げます。

お祝い 7 月誕生日を迎えられた会員



木村 忠夫会員 中島 捷二会員 田口 覇洲男会員
澤田 良一会員は欠席しました

< 第 122 回例会出席率 会員 35・出席 30・出席率 86% >

会 長 ス ピ ー チ

会 長 根 岸 友 憲



皆様こんにちは 今年度会長を務めさせて頂く根岸友憲です。これから一年間皆様のご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い致します。本年度は本来ならば鈴木民義会員が会長として決まっておりましたが思いもよらず長期の入院治療が必要になったため急速会長職に就任することになりました。鈴木民義様の早期の回復をお祈り申し上げます。

ピンチヒッターとして会長職に就任することに相成りましたが、野球でいえば代打は勝敗を左右する大事な場面で登場することが多いのだからといって、皆様に激励されましたけれど私としては三振してしまうのではないかと不安でしかたありませんどうぞよろしくお願い致します。

近年は新型コロナウイルスの世界的な流行いわゆるパンデミックにより社会構造そのものが変化を余儀なくされ始めました。ワクチンが開発され日本でもワクチン接種の対策により多少感染リスクに明るい兆しが見えてきましたが、まだまだ気の抜けない状況が続いております。

また七月の下旬からオリンピック、パラリンピックの開催が現実的になり、このことが吉と出るか凶と出るかで日本経済の先行きが決まる大事な一年になるではないでしょうか、現時点では先

の見える不安な社会情勢ではありますが、共に楽しい例会を続けてゆけるよう尽力して行きたいと思っております。

今年度の方針の一つであります会員の親睦をはかる方法として卓話をできる限り会員の方にお願ひし懇親をより一層深めていき鴨田年度で承認されましたクラブ協議会を開き明るく楽しく気品のあるクラブ運営を目指して頑張っていきたいと思ひます。話が苦手ありますのでまとまりませんができる限り年度計画に沿った運営を目指してまいります。



ハッピーボックス発表

◎今日から会長として出席させていただきます。皆様のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします。(根岸会長) ◎雨続きの日々でしたが夏空が広がった本日、そろそろ梅雨明け宣言が聞かれそうですね。夏本番です。元気にまいりましょう!! (木島副会長) ◎当月より根岸年度が始まりました。新たな役、幹事及び事務局長となり、プロバス運営にご協力お願い致します。(岡安幹事) ◎皆様ご無沙汰しておりました。またご心配をおかけしました。私の病状もやっと良くなり久しぶりに出席することが出来ました。クラブからのお見舞いを頂き有り難うございました。また元気にクラブに出席させていただきます。よろしくお願

い致します。(安部) ◎今月より正式の入会となります。どんな貢献が出来るかしっかりと考えて行動したいと思っています。(森田) ◎巨樹巡礼 1,000 本達成記念 DVD を全会員に贈呈させて頂きました。(木村) ◎前年度役員の皆様一年間ご苦労様でした。今年度の役員の皆様一年間よろしくお願致します。また会員の皆様元気に頑張りましょう。(石塚・岩崎・小川・加藤・鴨田・小島・小山・清水・須郷・鈴木秀・高橋・田口・畠山・宮根・武笠・山田・山本・渡邊・中島) ◎コロナ禍の中新年度が始まりました。どうぞ宜しくお願い致します。(大澤・柿沼・保泉) 文責 中島捷二

第 122 回 例会卓話

会長に就任して

根 岸 友 憲



皆様あらためましてこんにちは。先ほどもご挨拶で申し上げましたが、今年度会長を務めさせていただきます根岸友憲です。埼玉浮き城プロバスクラブに入会し、いままで皆様のご指導受け過ぎてまいりました。副会長も一度経験させて頂きました、会長を務めることは不安だらけではありますが、責任の重さをしっかり受け止めましてクラブ発展のため一年間頑張つてまいりますので皆様のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

近年は新型コロナウイルスの世界的な流行いわゆるパンデミックにより社会構造そのものが変化を余儀なくされ始めました。ワクチンが開発され日本でもワクチン接種の対策により、多少感染リスクに明るい兆しが見えてきましたが、まだまだ気の抜けない状況が続いております。また7月の下旬からオリンピック、パラリンピックの開催が現実になり、このことが吉と出るか凶と出るかで日本経済の先行きが決まる大事な一年になるのではないのでしょうか。現時点では先の見えない不安な社会情勢ではありますが、共に楽しい例会を続けていけるよう尽力していきたいと思っております。

クラブ運営についてですが、昨年から続くコロナ禍で私達を取り巻く生活環境は大きく変わりつつあります。新聞テレビ等での報道によりますと、コロナ前の生活に戻るのには少なくとも4～5年、もしかしたらこのまま新しい生活様式が定着してしまうのではないかとされています。このような状況を考えますと今後プロバスの活動がどうなっていくのか会員の皆様の知恵で変化に対応しなければならないと思っています。

卓話についてもできる限り会員の方をお願いし懇親を一層深めて行きたいと思っております。

現在大河ドラマ「晴天を衝け」で渋沢栄一の物語を放送しています。この幕末の時代北武蔵では、渋沢同様尊王攘夷運動の志を持つ若者たちがおりました。

その中の一人羽生出身の清水卯三郎を紹介します。卯三郎は文政12年(1829)生まれ渋沢より10歳年上です。清水家は羽生でも一二を争う作り酒屋で名主も務めていました。母は胃山の豪農根岸友山の妹です。23歳ごろまで友山の私塾三余堂で寺門静軒や忍藩校教授吉川波山等のもとで学び甲山領主旗本の筒井順敬に仕え武士を目指しますが失敗に終わります。その後友山の勧めで長崎に行き友山の弟の養子先井本氏の経営する商社(たなべや商店)で働き商人の道を選びます。長崎では当時幕府の蘭学の第一人者箕作阮(みづくりげん)甫(ぼ)に学びオランダ語をマスターします。

また商人として、外国人と取引を約3年間する間に英語・ロシア語をマスターします。江戸で生麦事件が起こり、英国艦隊が鹿児島城を攻撃薩英戦争が始まります。英国の艦隊が通訳を募集、卯三郎はそれに応募し英国艦隊に乗り込むことになります。英国艦隊は薩摩藩の新造した蒸気船を拿捕し司令官2人を捕虜にしていまいます。一人は松本弘安、もう一人は五代才助(後の五代友厚)でした。松本弘安は以前、卯三郎が長崎の蘭学の箕作塾で同期であったので英国の船長と交渉し釈放してもらい熊谷の吉田六三郎に匿ってもらう事したのです。薩摩に返すと命の危険があったからです。五代は三か月で鹿児島に戻り、松本は寺島宗則と改名し、明治政府で外務大臣・文部大臣・米英行使を歴任します。

1867年(慶応3年)パリ万博に日本で私商人としてただ一人参加、資金は2万両を借金をしましたが、妹の嫁ぎ先の吉田六三郎が立替ました。一部を根岸友山が援助しました。パリ万博では日本の芸者3人を連れて茶屋を展示し評判になりナポレオン三世から銀メダルを授与されました。また借金の2万両はパリ万博の売り上げで返すことができました。

日本に帰り、瑞穂屋商店を開き歯科医療機器、印刷機械を輸入し事業を成功し実業家の仲間入りをしますがその後事業に失敗一代で財産を失いました。



会 員 投 稿



オオタカの生息地に暮らして

木 村 忠 夫

わが家は埼玉県行田市の国の特別史跡「さきたま古墳群」の南端にある埼玉県名発祥の古社、前玉(さきたま)神社の広大な森に隣接しています。森は東京の明治神宮の森に倣って天然更新を目指しており昼なお暗く鬱蒼としています。この森に絶滅危惧種のオオタカが生息しています。住まいから30mほど隔てたヒノキの古木が密集する頂部に巣があり、朝晩ともなると空を引き裂くような鋭い声で「キーキー」と鳴く声が響き渡ります。オオタカをカメラに収めようと大型望遠カメラを抱えたウオッチャーが朝早くから押しかけます。

オオタカの大きさはカラスと同程度と思いのほか小型です。森の一番高い樹に巣を作りヒナを育てます。警戒心が旺盛で目撃するのは至難の業です。森の中で木々や茂みの間を飛行するには小さ目の体形は有利と見えます。頭部が通る隙間さえあれば飛行スピードはそのままに、翼を折りたたみながら狭い木々の空間を潜り抜けると言われており、その特技を発揮してキーキーと鳴きながら縦横に樹間を飛び回っています。羽を開らくと100～130cm位で空中での急ブレーキや方向転換も自在なフットワークを見せます。飛ぶ速さは、水平飛行時で時速80Km、急降下時には時速130kmに達するといわれ、一度狙いをつけた獲物を執拗に追いつけます。その飛行能力の高さからハト・カラス・カモ等中小型鳥類、ネズミ・ウサギ等の小型哺乳類を好んで捕食します。空中あるいは地上で捕らえる猛禽類の捕獲シーンに時々遭遇し興奮します。

飼いならした鷹を山野に放って行う狩猟の一種に鷹狩りがあります。古墳時代の埴輪には手に鷹を乗せたものも見受けられます。古代から支配者の狩猟活動は権威の象徴的な意味があったのでしょうか。鷹狩りは武士の台頭により更らに盛んになり戦国武将のアウトドアの娯楽の一つとして頼朝も信長も家康も好みました。家康に至っては各地に鷹狩りの足跡を数多く残しています。忍城(行田市)にも休息を兼ねて10数度立ち寄った記録も残っています。隣接の鴻巣市には家康鷹狩り御殿跡の史跡もあり往時が沸々として偲ばれます。

カラス対策にタカを放し害鳥駆除をする「鷹匠」がメディアで話題になっています。古来より鷹狩りに使う鷹を飼育し訓練する専門職がいました。近隣の館林市の鷹匠町武家屋敷「武鷹館」が市の重要文化財の指定を受け入場無料で公開しています。現在の鷹匠が使うオオタカは、捕獲禁止になっているこ

とから海外から輸入したオオタカを訓練し育成すると聞きました。

オオタカは警戒心が強く森からなかなか出なかったものが、保護が徹底し捕獲が禁止されたこともあり人を怖がらなくなり、里山や街中にも進出して体格的に互角なカラスを狩ったりしています。都心に近い明治神宮や上野恩賜公園の森にも定住し、ドバトやムクドリ等も餌食の対象とするものもあります。時にはカラスの古巣を土台に営巣して繁殖するチャッカリ組みも出現しています。

近年オオタカの生息数は生息地の大規模開発で脅かされ激減の一途でした。1984年の調査では約400羽までに減少し、絶滅の恐れがあるとして、希少野生動植物種として絶滅危惧種の指定を受け背水の保護対象となりました。その効果もあり国内生息数は急速に回復し、今日では5800羽まで改善していると環境省は発表しています。これにより国内希少野生動植物種から解除され、準絶滅危惧種に選定変更になっています。

大阪万博に次いで2005年に愛知万博が開催されました。会場予定地にオオタカが生息していることが確認され、生態系を破壊するとして市民団体の強硬な反対で、当初の開催規模を大幅に縮小し、長久手・瀬田会場に変更して開催されたことは記憶に新しいところです。

従来オオタカの捕獲許可の権限は環境省の所管でした。その権限が都道府県に移管されています。オオタカがレース鳩を獲ることもあることから、鳩愛好家から環境省に対してオオタカの有害捕獲申請が出されたままと仄聞しています。捕獲権限が都道府県に移行されたことで、安易に有害捕獲許可が出されないか心配です。



古来より鷹といえばオオタカを指します。いわば鷹の代表であり日本の森の王者として君臨する存在です。幼鳥期の体毛は褐色です、成鳥になると頭から尾羽にかけて上面が灰色になります。灰色の体毛は光の当たり方によっては青っぽく見えます。オオタカの名前は大きい鷹という意より、この蒼さに由来しており「蒼鷹」と呼ばれる所以です。腹面は白色に細い波状の暗灰色の横縞が走っています。その姿は精悍で凛として優美で隙がありません。

(4) 埼玉浮き城プロバスクラブ会報

ともあれ食物連鎖の頂点に位置するため生態系の自然が健全でないと生息が困難です。延喜式に記載されている古社が、明治神宮式の天然更新の森を目指していることはオオタカにとって望ましい姿なのかもしれません。

絶滅危惧種のオオタカが直近に住んでいるため、ウォッチャーから見ると垂涎の的として映るらしく「うらやましいですね」とよく言われます。私にとっ

て好奇心の対象が身近に存在することの幸せに感謝し、この地の利を生かしオオタカを今後とも温かく見守っていきたいと思います。

おわり



私の青春時代

椎橋俊夫

私の青春時代は昭和33年～42年までを言います。昭和25年～28年の朝鮮戦争が勃発、戦後の焼け野原から戦争特需を受け、景気が活気づき戦後復興の兆しが見えてきた時代と重なります。

当時の同世代はスキーが流行りやがてボーリングと、人が集まるとその話ばかり。私はこの風潮に反発、(本当は金も暇もなかった)安くて手軽な映画をよく観ました。最初は洋画も日本映画も観ましたが、あるとき全く知らないグループの雑談をしているのを聞いていると、日本映画、あんな物はだめだ。洋画でなくてはダメだと粋がっているのを聞き、それなら自分は日本映画を観ることを決め、以降洋画はあまり見なくなりました。まさに「東京物語」小津安二郎の世界。主演:原節子・笠智衆、特に笠智衆の渋い演技がたまらない。老夫婦の侘しさが今の時代でも当てはまるようだ。

あるとき舞台演劇を観ることを思い立ち新橋演舞場の新派、花柳章太郎・水谷八重子、3回くらい行き2回目からは花柳章太郎が引退、森雅之が出演して居ました。歌舞伎とは異なる新たな現代劇で、「明治一代女」は良く知られた演目でした。劇の合間に入る伴奏は歌舞伎では長唄・義太夫・常磐津・清元と多岐にわたるが、新派では新内が使われ、会場が静まった場面ですきとうった声で新内が入ると悲劇のヒロインへの感情移入が一気に高まります。明治座・歌舞伎座・東宝会館と2年間位休みの日にはかよいました。チケットは当日買いで安い3階でしたが、あるとき中年のカップルが自分の持っているチケットを買ってくれないかと言ってきました。二人で来て、チケットは1枚しか無くあと1枚が買えなかったのだそうです。私は快く引き受け会場に入ると、どこかの会社の招待券で特等席の昼食つきでした。初めて1階席で芝居を観て役者の演技に引き込まれる感覚を感じ、3階の高い位置から見おろすのは客観的に観る事。役者は1階の観客だけを対象に演技をしているのだと感じとりました。

通勤途中、仕事帰りに秋葉原の駅で途中下車をすると、駅前の広場に「こけし」を並べ、口上を始めるとあっという間に人だかりが出来、テンポの良い口上の面白さに聞き入りました。いわゆる啖呵売(たんかばい)です。数回聞いている内に寄席に行ってみようと考えた。ちょうど上野の鈴本で夜の部を観て熊谷に帰るのに都合良くすぐに芝居から寄席に切り替えました。

当時の噺家の2枚看板は「文楽と志ん生」で、文楽は同じ演題は寸分違いなくきっちりと語る。最後は講座で突然あとの台詞が出なくなり、頭を下げ「もう一度修行をして参ります」と言って講座を降り引退をした。

志ん生は同じ演題でもその時の気分で台詞を変える。酒を飲み講座に上がり途中で眠ってしまい、客から「起こすな、寝かしてやれ」と声がかかり、やがて目が覚めると講座を降り、観客も寝姿を見て一人も帰らなかったそうです。どちらも大変有名な話として伝わっています。

昭和の名人、志ん生、文楽、圓生、三木助、小さん。志ん生以外は鈴本で良く聞きましたが、志ん生は全く鈴本へは出ませんでした。たまたま志ん生の独演会が人形町の末廣亭であることを知り、聞きに行きました。私が志ん生の落語をなまで聞いたのは、これが一度だけです。この時は病に倒れて復帰してからで、ゆっくりとした口調で話の間が実に絶妙で以前に増してファンが増えたと言われています。

演目は「蛇含草(じゃがんそう)」で元は上方落語を登場人物と主題になる食べ物を大きく改変したもので「蕎麦清」と言われたものと話の中身は全くおなじです。話のあらすじは、「蕎麦の大食い清さんが、30枚の盛りそばを食べられるか賭けをします。清さんが仕事で信州の山奥へ行き大蛇が人間を飲み込んで苦しみながら草の葉を食べて居ると飲み込んだ物が溶けてすっきりして居なくなってしまいました。これを見ていた清さんはこの葉を持って帰り約束の賭けに望みます。あと少しで30枚と言うところで苦しくなり、外に出て内緒で持ち帰った葉を食べます。なかなか戻らない清さんの様子を見に出てみると蕎麦が羽織を着て座ってた。」ここがこの話の落ちで、ちょっと考えて、「あーそうか」というのが「考え落ち」です。

昭和42年に家業を継ぎ私の青春は終わり以降テープをカーステレオにコピーして楽しんでいました。

次回例会案内 9月17日(金)第124回通常例会 卓話「テーマ未定」 渡邊 栄 一 顧問

埼玉浮き城プロバスクラブ ブログ 第122回通常例会 会報No.121 更新しました。